

# 兵庫県議員 内藤 兵衛

## 県政NEWS No.34 2020.2



### 一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

## 新年度予算編成へ政策提言・申し入れ

# 自民党議員団幹事長として

## 一丸となって責任政党の責務果たす

### 誰もが夢を実現できる社会へ

昨年4月、県議会自民党議員団の幹事長に選任されて以来、想像以上に多忙な日々が続いています。

県当局との事業の執行状況、県政課題への対応、その推進方向などについての協議、検討や各議員への報告、意見調整を行い、県当局にフィードバックするなど議員団の総責任者として職務に当たっています。

自民党議員団は、所属議員が活発に議論し、結論に達すれば一丸となつて進むことが会派の伝統であり、強みです。他党派との折衝や調整も信念をもって取り組み、議長を中心とする円滑な議会運営に汗を流しています。

また、県政の意志決定を担う議事機関としての機能とともに重要なのが政策立案・提言機能です。

春名政調会長と申し入れ書を井戸知事に提出しました。新年度予算編成が本格化するのを前に、県内各地域の議員が地元の課題や要望、意見を持ち寄り、政策としてまとめ、9月には重要政策提

言、11月にはこれをよりきめ細かに具体化した施策を井戸知事に申し入れました。

申し入れは、地域創生実現の効果的戦略、防災・減災・縮小・危機管理対策の推進、「生きる力」を育む教育などを柱に270項目にわたります。

私は冒頭、幹事長として「行財政環境は厳しいが、一方で県民誰もが夢を持つことのできるふるさとづくりに邁進していかなければならない」と強調しました。



兵庫五国から選ばれた自民党議員団のメンバーと

昨年はポスト県政150年がスタート、時代は平成から令和となり、皆様からの付託を受け県議会4期目の任期が始まりました。この新たなステージを、県議会最大党派である自民党議員団の幹事長として迎えました。令和の時代に相応しいふるさとの未来を築くため、県政をリードする自民党議員団幹事長としての重責を果たし、着実な歩みへと軌道に乗せることが、今年の目標です。

最大の課題は地域創生。人口減少や少子高齢化が進展する中、地域の特色を活かした地域創生の加速化を図り、持続可能で元気な兵庫を築くことが、今年4年間の使命として、さらに全力を尽くします。

そのためにも力強い地域経済を実現しなければなりません。そして、あらゆる場で誰もが活躍できる全員参加型の「県民総活躍社会」を目指します。

その基盤となるのが安全安心の確保です。年々、激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守るため、社会資本整備や事前防災・減災対策の強化が必要

です。さらに、地域医療や介護など健康福祉の充実が欠かせません。

西脇多可では、一昨年の多可町新庁舎に続き、令和3年春に西脇市の新庁舎が完成します。地域創生を推進し進めるランドマークとして

てオーストラリアの卓球チームが事前合宿を行います。心のこもった精一杯のおもてなしにより、交流の促進、地域の魅力の発信に加え、子どもたちがトッパスリゾートとのふれあいを通じて夢を育んでくれるものと信じています。

不透明な世界経済に加え、本県財政も行財政構造改革の目標である収支均衡を達成したとはいえず、厳しい財政環境が続いています。

一つひとつの課題に真摯に取り組み、着実に成し遂げることが、新たなステージに相応しい「すこやか兵庫」の実現につながるものと確信いたします。

13年間の議員生活で痛感したのは、ふるさとの魅力であり、財産なのは「人」であること。県議会議員として地元の皆様とのスクラムをより強固にし、西脇多可が地域創生のモデルとなって兵庫、日本の発展をリードする地域となるよう、粉骨砕身の努力をする決意です。

初心を忘れることなく、「一日生涯」を胸に刻み、本年も全力疾走することをお誓い申し上げます。

## 令和新時代の未来を築く

兵庫県議会議員 内藤 兵衛



# 未来への投資 交流支える基盤整備

## 日野北バイパス供用開始

JR鍛冶屋線の跡地空間を活用し、西脇市市原町から羽安町を結ぶ延長2370mの日野北バイパス（県道中安田市原線、市道市原羽安線）の開通式が11月16日、快晴のもと執り行われました。渋滞解消と交通安全の確保のため、県と西脇市が連携し、平成27年から整備を進めていました。

鍛冶屋線が廃線となり30年。この間、旧羽安駅～市原駅区間の道路化の要望は絶えることなく引き継がれ、私自身もこの要望活動に携わってから12年が経過しました。地元住民の長年の夢がやっと叶えられた日となりました。

車道と歩道に加え、自転車専用通行帯も備えています。

開通式に先立つ11月4日には、鍛冶屋線廃線30年とバイパス開通を祝したウォーキングイベントが開催されました。4000名を超える地域住民の

方々が参加され、バイパス開通を本当に多くの方が待ち望み、そして喜んでおられる証しと感じました。

この事業に携わっていただいたすべての関係者の方々に衷心よりお礼を申し上げます。

西脇と多可を結ぶこの新しい道路を地域の元気づくりの手段として生かしていかなければなりません。未来につながる道として、役割をしっかりと理解し、地域創生の実現に向けて地元のみなさんとともに歩む決意を新たにしました。



開通式で祝辞を述べました（左上）。記念ウォーキングイベントに参加しました（左下）。自転車専用道はカラー舗装されています（下）

## 県道黒田庄多井田線・喜多バイパス完成

また、8月3日には、一般県道黒田庄多井田線・喜多バイパスの完成式が行われました。

同線は加古川左岸を南北に走る幹線道路であり、国道175号線の機能を補完する重要な位置づけにあります。バイパス区間は道路幅が狭く、線形も悪い交通の難所でもありました。落石事故も過去に発生するなど、

早期のバイパス改良が地域の要望としてあがっていました。

平成26年度から事業着手し、橋梁29.2mを含め全長350m、幅員9.25mで歩道も整備された安全な道路として供用を開始しました。

近隣には、日時計の丘公園や

オートキャンプ場、今年3月には西脇市では初めての酒蔵が完成予定であり、生活道路としての利便性のみならず、兵庫県の進める地域創生を後押しする新しい道路としても期待されています。



整備が完了した喜多バイパス

## 175号西脇北バイパス3月に

今年3月には国道175号西脇北バイパスの西脇市寺内から黒田庄町大伏間（2100m）が完成する予定です。

黒田庄以北の早期事業化についても国に働きかけていくなど、引き続き、努力してまいります。

## ひょうご地域創生交付金 新年度も40億円

### 総務常任委員会・活動報告

総務常任委員会の調査研究活動として、県内外の地域創生の現場を訪問しています。

今年度は、次期地域創生戦略の策定作業が進められ、実効性ある内容となるよう、積極的に意見、提言を行っています。

市町を支援する「ひょうご地域創生交付金」を来年度以降も継続するよう求めています

が、今年度と同額の40億円を計上する方針が決まっています。

次期戦略について井戸知事は、地域の個性や強みに着目した地域別プロジェクトに重点を置くことを12月定例会で表明しました。今後、予算編成作業が本格化する中で、県と市町の連携による効果的な取り組みを求めていきます。

## 災害からの中小企業の事業継続を支援

### 中小企業振興条例を改正

議員提案により平成27年に制定した「中小企業の振興に関する条例」の改正案が12月定例会で可決しました。大規模な災害が相次ぎ、地域経済を支える中小企業の事業継続を可能とする環境整備が必要となっているため、災害対応を明記しました。

被災した中小企業の復旧・復興、事業継続に県が先頭に立ち

取り組む決意を示すものです。27年に自民党議員団の政調会長として制定に汗を流したこともあり、今回、より充実した条例になったことに感慨ひとしおでした。

兵庫経済の核となり、地域創生実現の原動力となる中小企業の振興に今後も全力で取り組みます。